



NEWS RELEASE

一般社団法人 日本IR協議会
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-6-6 MIFビル9階
Tel 03-5259-2676(代表) Fax 03-5259-2677 <http://www.jira.or.jp>

2015年11月13日

第20回「IR優良企業賞」発表

一般社団法人 日本IR協議会（会長・隅修三 東京海上ホールディングス株式会社取締役会長）は、このほど2015年度IR優良企業賞受賞企業を決定いたしました。

「IR優良企業賞」（審査委員長・北川哲雄 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科教授）は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で20回目を迎えます。今年の受賞企業には、以下のような特徴があります。

- 経営トップが積極的にIR活動に関与し、経営層の理解や関係部門の協力体制も整えて、質が高く安定感のある活動を続けている
- 投資家との対話を経営戦略の策定などに活かした上で、資本生産性に関わる長期目標を明示するとともに当該企業の経営ステージに即した説得性のある企業価値向上プロセスを説明している
- コーポレートガバナンスの考え方をIR活動において公表し、非財務情報の発信も工夫して、株主・投資家の理解を深めようとしている

北川審査委員長は「IR優良企業に選ばれた企業は、投資家との対話を重視するとともに、企業理念に基づいた中長期的な企業価値創造を大切にしている。そうした姿勢をIR活動で説明し、資本市場における高評価も得ている。また、これまでのIR活動の範囲にとどまらず、コーポレートガバナンス方針の理解促進や、多様な投資家に対応する個性的な取り組みにも積極的に『挑戦』している。奨励賞受賞企業の活動の充実や進歩も著しい」と語っています。

審査対象は、日本IR協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2015年の応募企業は263社となりました。受賞企業は下記の通りです。IR優良企業大賞2社、IR優良企業賞5社、IR優良企業特別賞3社、IR優良企業奨励賞3社の合計13社でした。受賞企業の主な選定理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

I R優良企業大賞 受賞企業（社名 50 音順）

味の素株式会社
シスメックス株式会社

I R優良企業賞 受賞企業（社名 50 音順）

オムロン株式会社
塩野義製薬株式会社
東鉄工業株式会社
日本電信電話株式会社
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

I R優良企業特別賞 受賞企業（社名 50 音順）

住友化学株式会社
ピジョン株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ

I R優良企業奨励賞 受賞企業（社名 50 音順）

クオール株式会社
フロイント産業株式会社
三菱商事・ユービーエス・リアルティ株式会社

各賞の概要は下記の通りです

I R優良企業賞

日本 I R協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定・表彰しています。

I R優良企業大賞

過去 2 回 I R優良企業賞を受賞し、3 回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から 2 年間は「I R優良企業賞」の対象から除外されます。

I R優良企業特別賞

I R優良企業賞に応募した企業のうち、継続的に I Rのレベルを高めている、業界のリーダーとして I Rに積極的である、個人投資家向け I Rの評価が高い——企業など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

I R優良企業奨励賞

I R優良企業賞に応募した企業のうち、新興市場・東証 2 部の上場企業、および東証 1 部上場企業であって新規に株式を公開後 10 年目以内の中小型株企業の中から表彰しています。2002 年より表彰をスタートさせました。

I R優良企業奨励特別賞

I R優良企業奨励賞に応募した企業のうち、「奨励賞」受賞企業とほぼ同等と評価された企業、今後の展開が期待される企業、ユニークな取り組みが評価された企業があった場合

に表彰することとします。2011年より新たに表彰をスタートさせました。

審査方法は3段階で、下記のとおりです

- ①応募企業が提出した「調査票」の結果をもとにした第1次審査（224社が第2次審査へ進出）
- ②審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員13名がIR優良企業賞審査対象企業199社、奨励賞審査対象企業25社を評価する第2次審査
- ③専門委員による第2次審査をもとに、学術経験者、弁護士等も加わった審査委員全員による最終（第3次）審査

表彰式（「IRカンファレンス2015」のプログラムのひとつとして開催）

12月16日（水）午前11時30分から、ガーデンシティ品川で開催する予定です。

問い合わせ先： 一般社団法人 日本IR協議会 事務局

TEL：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

日本IR協議会とは：1993年設立のIR普及を目的とする非営利団体。会員数は563（2015年10月末時点）、主な活動はIRの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。
<https://www.jira.or.jp>

【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴

I R優良企業大賞 受賞企業（社名 50 音順）

味の素

（2012年、2014年 I R優良企業賞、大賞は初）

今年就任した経営トップも積極的な I Rを継続し、投資家との対話を経営に活かしている。I R部門の理解しやすい説明や資料にも定評がある。この 1 年は非財務情報の発信に注力し、企業価値の源泉である概念 A S V (=Ajinomoto Group Shared Value) と経営戦略に一貫性を持たせた説明や、初開催の E S G説明会は投資家に高評価であった。コーポレートガバナンス・コードに対する考え方も経営トップが早めに公表した。安定的で常に進化を続ける I Rは大賞に値する。

シスメックス

（2004年 I R優良企業奨励賞、2006年、2011年 I R優良企業賞、大賞は初）

大賞にふさわしく、長期にわたってレベルの高い I R活動を続けている。経営の透明性が高く、研究・開発状況も把握しやすい。経営トップは、投資家の視点を踏まえて経営戦略や中期経営計画を説明し、対話の機会も設けている。I R部門はわかりやすい情報開示に努め、投資家からのフィードバックを活かしている。説明会資料やミーティング、工場見学会や海外事業所訪問などへの評価も高い。個人投資家向け説明会やウェブサイトの内容も充実している。

I R優良企業賞 受賞企業（社名 50 音順）

オムロン

（2012年 I R優良企業大賞）

高いレベルを継続し、企業価値向上に資する I Rを追求している。経営トップのメッセージは明確で、投資家にもわかりやすい。I R部門は常に向上を心がけ、説明資料などには、資本効率やコーポレートガバナンスの考え方を表す情報が充実している。国内に加えて海外でも事業説明会や工場見学会を開催している点も評価が高い。個人投資家向けには、説明会やウェブサイトを通じて情報発信し、株主総会の招集通知の内容や早期発送などにも配慮している。

塩野義製薬

（2014年 I R優良企業特別賞、I R優良企業賞は初）

経営トップの I Rへのコミットメントが強く、説明に説得力がある。投資家の意見の中で与すべきものを経営に反映し、I R活動を企業価値創造に活かしている。情報開示にも真摯に取り組み、業績にネガティブな情報も経営トップ自らが丁寧に説明して高評価を得た。開発担当者による R & D（研究開発）説明会も定期化しており、情報開示に対する社内の意識改革の表れと評価されている。審査項目全般にわたって前年度より評価が高まり、連続受賞に至った。

東鉄工業

(2012年 I R 優良企業特別賞、I R 優良企業賞は初)

経営トップを中心に、I R を管掌する C F O のもとで活動を充実させている。現場見学会には、船から見学するなどユニークな企画を盛り込んでいる。見学会には経営トップを含む経営層も参加し、全社で取り組む姿勢が評価されている。自らを「チーム C F O」と称する I R 部門は真摯に投資家と向き合い、わかりやすい説明が評価されている。対話のベースとなる説明資料も充実している。個人投資家向け説明会やウェブサイトの向上にも熱心である。

日本電信電話

(2014年 I R 優良企業特別賞、I R 優良企業賞は初)

経営トップの積極的に I R 活動に取り組む姿勢が経営層全体に行き渡り、「I R・Day」などの活動や対話につながっている。1株当たり利益や株主還元などの経営目標を明示して実行する姿勢への評価も高い。I R 部門は、経営層と投資家とのミーティング設定や取材対応、情報開示の向上やコーポレートガバナンス体制の説明力強化、個人投資家説明会の回数や対象の拡大、ウェブサイトの充実などに取り組んでおり、年々、評価が高まっている。

ポーラ・オルビスホールディングス (初受賞)

業績の変動に関わらず I R 活動に取り組み、継続する姿勢が評価を高めている。経営トップの関与度が高く、企業価値向上という目的に向けての対話を積極的に実行している。社内の関連部門のサポート体制がしっかりしており、業績の進捗状況を把握しやすい。I R 部門に有用な情報が集約されており、投資家との議論も充実している。個人投資家向けにも説明会を活発に開催し、女性を対象にした体験型イベントなど独自性ある取り組みを続けている。

I R 優良企業特別賞 受賞企業 (社名 50 音順)

住友化学 (初受賞)

経営トップが主体となって、経営層が積極的に I R に関与する姿勢が高い評価を得ている。投資家の関心に合わせて経営戦略説明会などの企画を充実させ、対話を一段と重視する姿勢を打ち出している。R O E 目標達成のための「R O I (投下資本利益率) ツリー分析」など、持続的成長や企業価値向上に向けた具体的な取り組みを丁寧に投資家に説明している。インベスターズハンドブックなどで、投資家が求める情報の開示を充実させていることも評価されている。

ピジョン (初受賞)

近年、I R 活動への評価が高まっている。経営トップが自ら中長期的な成長戦略や課題、企業価値の創造プロセスをわかりやすく説明している。特に「P V A」という同社独自の E V A (経済付加価値)に加え、C C C (キャッシュコンバージョンサイクル) や R O I C (投下資本利益率) を活用した具体的な戦略説明などに独自性がある。決算発表後の詳細なデータ開示のほか、中国など海外における現地情報の開示姿勢も良好で、投資家からの評価が高い。

みずほフィナンシャルグループ（初受賞）

経営トップ自ら I R に積極的に関与し、四半期ごとに CEO または CFO が投資家と対話している。I R 部門は「I R・Day」などを開催し、金融コングロマリットという複雑な事業構造への理解を促す工夫をしている。コーポレートガバナンス強化にも取り組み、コーポレートガバナンス・コードの導入とともに他社に先がけて報告書を公表し、投資家の関心が高い原則への対応を具体的に説明。取締役会議長（社外取締役）の情報発信も熱心に進めている。

I R 優良企業奨励賞 受賞企業（社名 50 音順）

クオール（初受賞）

調剤薬局大手。I R 体制に対する評価が高く、経営戦略をわかりやすく説明している。I R 担当者は業界動向や社内外の情報収集に優れており、経営トップとのやり取りも密接で、担当者の知見が I R に活かされている。調剤報酬の改定など業績にネガティブな影響を及ぼす事象についても、その対応策などをきちんと解説している。投資家からの信頼感も高く、総合的な評価が高い。近年の活動の充実度や向上への取り組みも評価されている。

フロイント産業（初受賞）

薬品や食品会社向けの製剤装置などが主力事業。I R 体制では経営のトップ層が責任者となっており、投資家へのコンタクトを増やしている。時価総額が約 130 億円(2015 年 10 月末時点)と市場の中では相対的には小さいが、きめ細かい情報開示に努めるなど地道な活動を続けている。個人投資家向け I R 活動も説明会を頻繁に開催するなど活発である。活動は、工夫や新しい取り組みを伴って着実に進歩しており、評価も年々、高まっている。

三菱商事・ユービーエス・リアルティ（初受賞）

国内初の商業施設特化型 R E I T 「日本リテールファンド投資法人」と、同じく国内初の産業用不動産特化型 R E I T の「産業ファンド投資法人」を運営する。継続して高いレベルの I R 活動が評価された。経営トップによる国内外での I R 活動に加え、証券会社の営業担当者へも活発に説明するなど、認知度を高める活動には独自性がある。業績修正時の要因分析資料など情報開示に積極的。物件見学会など、投資家の理解度を高める機会も増やしている。

以上